

アジアにおける コミュニティ・オーガナイズ(住民組織化)運動の流れ

下川雅嗣

歴史

どの国においても、一般に都市貧困層は行政・社会から排除される傾向にある。このような貧困層の発言に耳が傾けられるのは、彼らが組織化されたときのみだ。貧困層がその生活環境を改善するための鍵は“組織化”である。アジアでは、特に居住 = 人間らしく住むための貧困者の組織化の歴史に富んでいる。その組織化によって彼らは、強制撤去を回避し、居住空間を手に入れてきた。

この大きな流れを作ったひとつの方法論は、サウル・アリンスキーの方法論である。ここでは、この方法論がどのようにアジアで広まっていったのか、そしてその内容を簡単に紹介し、またその限界として私が感じていることに少し触れたい。

サウル・アリンスキー(1901-1972)は、シカゴのスラム街で生まれ、主に黒人居住区の住民の組織化を実際に行いながら、1940年頃、あるひとつのコミュニティ組織化方法論を確立させた。アリンスキーの方法論については後ほど具体的に述べるが、草の根的活動からはじまる社会変革のためには、創造的で直接的行動を伴った現実的な目標獲得が大切で、これを通してコミュニティは組織化され、それによってより大きな目標獲得ができるという社会変革のためのサイクルである。この方法論は1960年頃全米に広がり、1970年以降は日本を除くアジア諸国にまで広がった。その歴史について、簡単に紹介しよう。

アジアでは1960年代後半から1970年代はスクオッター(所謂、『不法占拠』)に対する強制撤去が頻繁に行われた時期である。これに対して当初はスラム等貧困層の人々は、大きな組織化をどのように実践したらよいか暗中模索の状態であった。そこで、アメリカでアリンスキーと共に活動していたヘルベルト・ホワイトが、このアリンスキーの方法論を伝えるために招きを受けて、1968年韓国、1970年フィリピンへ行った。フィリピンでは、まずコミュニティ・オーガナイザーの養成機関としてPECCO(Philippine Ecumenical Committee for Community Organizer

コミュニティ・オーガナイザー・フィリピン委員会を創設した(PECCOは1977年にCOPE(Community Organization of the Philippine Enterpriseフィリピン企図的コミュニティ組織)によって引き継がれた)。このコミュニティ・オーガナイザーの役割を一言で言うならば、そのスラム・スクオッター地域に入りこんで一緒に住み、住民自身が自分たちの問題を決定できるように手伝いながらコミュニティを組織化・強化して行くことである。なお韓国では、1969年に都市問題研究所が最初のコミュニティ・オーガナイザー訓練プログラムを行って、その後、種々の団体がコミュニティ・オーガナイザーを養成し、現在では主にCONET(Korean Community Organizing Information Network韓国住民運動情報教育院)が引き継いでいる。

続いて1971年に、アジア各国にコミュニティ・オーガナイザーの養成機関を創設するため1971年ACPO(Asian Committee for People's Organizationアジア住民組織委員会)が設立された(初代所長は、同志社大学の竹中正夫氏であった。しかし日本では寄せ場運動の特殊性もあり、この運動は継承されなかった)。この動きによって、それ以降アジア各国にコミュニティ・オーガナイザーの養成機関及び統轄組織が設立された。1971年には香港でSAC(Society for



Community Organizationsコミュニティ組織協会)1972年にはインドネシアでICCO(Indonesian Committee on Community Organization:インドネシアコミュニティ組織委員会。現在はUPC(urban poor consortium:都市貧民協会)が引き継いでいる)1973年にはタイでVOMPOT(Voluntary Movement for Peoples Organization in Thailandタイ住民組織自発的運動。なおこれは1986年以降POP(People's Organization for Participation参加住民組織)に引き継がれている)1979年には、インドでCISRSが設立された。ほかにモネパールやマレーシアでもコミュニティ・オーガナイザーの養成が行われた。なお、自国に養成機関を設立することができなかったミャンマー、スリランカ、パキスタン、ハンガレラデッシュなどの人々も、PECCOやACPOで養成を受けた。

またこのように養成されたコミュニティ・オーガナイザーの働きによってアジア各国にいくつもの有名な貧困者コミュニティが生まれた。たとえば、1970年にマニラのトンドスラム地域で、最盛期(1975年頃)約30万人を組織したZOTO(Zone One Tondo Organization:トンド地域統一組織)が誕生した。またインドのボンベイでは、1979年、アジア最大のスラムといわれるダラビ地域(現在は約80万人ほど)の住民組織であるPROUD(People's Responsible Organization of United Dharaviダラビ住民統一組織)、ワダラ地区(約40万人)では、1986年POWER(People's Organization Wada for Equality and Rights平等と権利のためのワダラ住民組織)が誕生した(これらは現在も活動中で、この組織力のために1993年以降両スラムでは強制排除は行われていない)。もちろんほかに各国無数のスラムコミュニティが誕生した。

なお、現在ACPOの機能は、1993年以降LOCOA(Leaders and Organizers of Community Organization in Asiaアジアコミュニティ組織のリーダーとオータナイザー)によって引き継がれるとともに、アジア各国での連帯関係の強化を模索している。

